

2022年 百里初午祭 アピール

百里基地では毎日のように戦闘機が爆音をまき散らし、戦争準備の訓練が行われています。

こうした中、北関東防衛局は昨年8月から陸上自衛隊木更津駐屯地に暫定配備中のオスプレイ機を使用した百里基地訓練計画を明らかにし、私たちの訓練中止の声を無視し、8月26日に訓練を強行しました。オスプレイは開発段階から墜落等の死亡事故が多発しており、「未亡人製造機」とまで言われている欠陥機です。基地周辺住民のいのちを危険にさらすオスプレイ機の百里基地飛来を絶対に許すことはできません。

さらに12月13日には百里基地で通算10回目の日米共同訓練が行われましたが、軍事力によるアメリカの世界戦略に日本を巻き込み、日米軍事一体化を推し進める日米共同訓練の実施を認めることはできません。

「安倍政権を批判するそぶり」を見せる岸田政権は、憲法破壊・「海外で戦争する国づくり」・軍事費増額など「歯止めのない軍拡」をさらに推し進めています。

沖縄では県民が選挙ごとに「辺野古移設NO!」「普天間基地の無条件撤去」の意志を示しているにも関わらず、軟弱地盤を無視して、辺野古新基地建設を強行しています。

6年前、安倍政権が強行採決した「安保法制＝戦争法」で、中国と台湾との緊張関係や北朝鮮のミサイル発射を口実にして、自衛隊が米軍とともに戦争する訓練を強めています。憲法9条に「戦争放棄」を掲げる国として、アメリカ軍との軍事一体化を絶対に認めることはできません。

百里基地は、機密保持を強化し「軍隊としての自衛隊」に変貌しています。これまで私たちは百里基地で訓練反対集会を開き、正門前で抗議の声を上げてきました。しかし、12月13日の日米共同訓練反対集会で、基地側は「正門前の集会開催と文書受け取りはできない」という対応を行いました。許すことはできません。

「現代の治安維持法」と言われる「土地利用規制法」は、私有財産を侵害し、平時から国民を監視し、かつ処罰するものです。平和運動や住民運動を規制し、市民の運動を弾圧するのが目的の法律です。今年9月の施行前に廃止を目指す運動を広げようではありませんか。

百里初午祭に集まった私たちは、平和を願う多くの市民とスクラムを組み、岸田政権による「改憲」の動きに反対します。

そして、戦争する国づくりのための自衛隊百里基地の撤去をめざし、草の根の運動を地域から全県に広げたたかいを強めていきます。

以上アピールします。

2022年2月11日

百里初午祭 参加者一同